

2008年3月25日
株式会社日立製作所
日本オラクル株式会社

日立プラットフォームと「Oracle Database 11g」で実現する BCM ベストプラクティスを公開

～ 「Hitachi Universal Storage Platform V」のボリューム容量仮想化機能と「Oracle Automatic Storage Management」の連携および「Oracle Active Data Guard」の有効性を実証～

株式会社日立製作所（本社：東京都千代田区、執行役社長：古川一夫、以下 日立）と日本オラクル株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：新宅正明、以下 日本オラクル）は、本日、「Oracle GRID Center（オラクル・グリッド・センター）」において、日立とオラクルが実現する事業継続マネジメント（BCM）プラットフォームソリューションの確立を目指し実施した以下の共同検証成果をベストプラクティスとして公開します。

1. ストレージのボリューム容量の仮想化を実現する「Hitachi Dynamic Provisioning（HDP）」と「Oracle Automatic Storage Management（ASM）」連携による最適なストレージ管理手法
2. 日立プラットフォームと「Oracle Database 11g」の主要な新機能である「Oracle Active Data Guard」による効率的な災害対策システムの構築と運用管理手法

ビジネスにおける IT システムの重要性の高まりと共に、安定かつ継続的なシステム稼動とサービスの提供は企業において最重要課題となっています。計画的なメンテナンスや万一の障害におけるシステムダウンタイムの極小化が求められています。

日立のエンタープライズ向けストレージ「Hitachi Universal Storage Platform V」のボリューム容量の仮想化を実現する「HDP」とデータベースの側面からストレージを管理する機能である「ASM」を組み合わせることで運用管理、初期導入コストの軽減およびディスク追加時のサービス無停止を実現します。

また、日立の高信頼ブレード・サーバー「BladeSymphony（ブレードシンフォニー）」と「Oracle Database 11g」を組み合わせることで、ディザスタ・リカバリにおけるスタンバイサイトの有効活用と、システムにおけるハードウェア/ソフトウェア両面からのオンラインメンテナンスを実現します。

検証結果は次の通りです。

1. 「HDP」と「ASM」連携時のベストプラクティスを公開

「HDP」は、ストレージの物理容量に依存せずにサイズの大きなボリューム（仮想ボリューム）を定義できるため、複雑なボリューム容量設計を不要にし、ストレージキャパシティプランニングの手間を大幅に削減します。データのストレージ実記憶領域への配置を最適化することで、ストレージ容量の使用効率を最大化し、顧客のストレージ投資対効果を向上すると同時に、ストレージシステムの省電力、ランニングコストの改善も可能になります。

「HDP」と「Oracle Database 10g」から提供されているストレージ管理機能である「ASM」を組み合わせることで、次のメリットが得られることを実証しました。

- ・ オンライン中のディスク増設にともなうシステム停止が不要
- ・ 初期導入コストの削減および容量設計の負荷の削減
- ・ 容量管理の負荷の削減
- ・ 性能設計の負荷の削減

さらに、今回検証した最適構成および最適構成における運用・構築方法をベストプラクティスとして公開します。詳細は以下を参照ください。

「日立ディスクアレイ Hitachi Universal Storage Platform V の Hitachi Dynamic Provisioning 機能と Oracle Automatic Storage Management 連携時のベストプラクティス・ホワイトペーパー」

URL: <http://www.hitachi.co.jp/products/it/storage-solutions/techsupport/whitepaper/index.html>

2. 実システムを想定した大規模トランザクション環境での「Oracle Active Data Guard」による有効性の実証

「Oracle Database」の「Oracle Data Guard」はデータベースのディザスタ・リカバリ機能を提供しています。さらに、「Oracle Database 11g」では新たに提供された「Oracle Active Data Guard」により、障害対策のために構築されたスタンバイ・データベースをレポーティング等の参照業務で利用することが可能です。

今回の検証では顧客の利用環境を想定した大規模なトランザクション負荷環境において「Oracle Active Data Guard」によるスタンバイサイトの参照業務での利用、および障害ケースを想定した挙動の検証を行い、スタンバイサイトのリソース活用の有効性、スタンバイ活用下での障害時フェイルオーバー時間の短縮とトランザクション業務の継続性を確認することができました。今回の検証結果はこのソリューションが BCM プラットフォームとして、高い費用対効果と事業継続性を同時に提供できることを示しています。

検証結果と検証にて得られた実績のあるノウハウをまとめ、ベストプラクティスとして公開します。詳細は以下を参照ください。

「日立と Oracle が実現する BCM プラットフォームソリューション & Oracle Active Data Guard 検証報告」

「Oracle Data Guard 11g フィジカル・スタンバイ設定ガイド」

URL: <http://www.hitachi.co.jp/products/it/storage-solutions/techsupport/whitepaper/index.html>

日立はこれまでも金融、公共などの幅広い分野において、数十社の「Oracle Data Guard」案件の構築実績があります。今後は、本検証で得られたノウハウをもとに「Oracle Data Guard 11g」構築支援サービスの強化をしていきます。

両社は今後も「Oracle GRID Center」において、BCM を具現化する新しいソリューションの開発および実証を強化していきます。

「Oracle GRID Center」について

「Oracle GRID Center」は、2006 年 11 月に開設した最先端のグリッド環境を備える検証センターです。オラクルのグリッド技術とグリッド戦略パートナー各社のソリューションを組み合わせた共同検証により、最適構成および最適構成における運用・構築方法のベストプラクティスを作成します。詳細は下記の URL を参照ください。

URL=http://www.oracle.co.jp/solutions/grid_center/

本件に関するお問い合わせ先

株式会社 日立製作所 情報・通信グループ

RAID システム事業部 事業企画本部 製品企画部 【担当：真田】

〒250-0872 神奈川県小田原市中里 322-2

電話：0465-49-1111（大代表） 内線 5760

OracleDirect 電話：0120-155-096

* Oracle は、米国オラクル・コーポレーション及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。その他のブランドまたは製品は、それぞれを保有する各社の商標または登録商標です。

添付資料

「検証システムの構成概要図」

～ Hitachi Universal Storage Platform V HDP と ASM 連携 検証

* データベース・サーバー

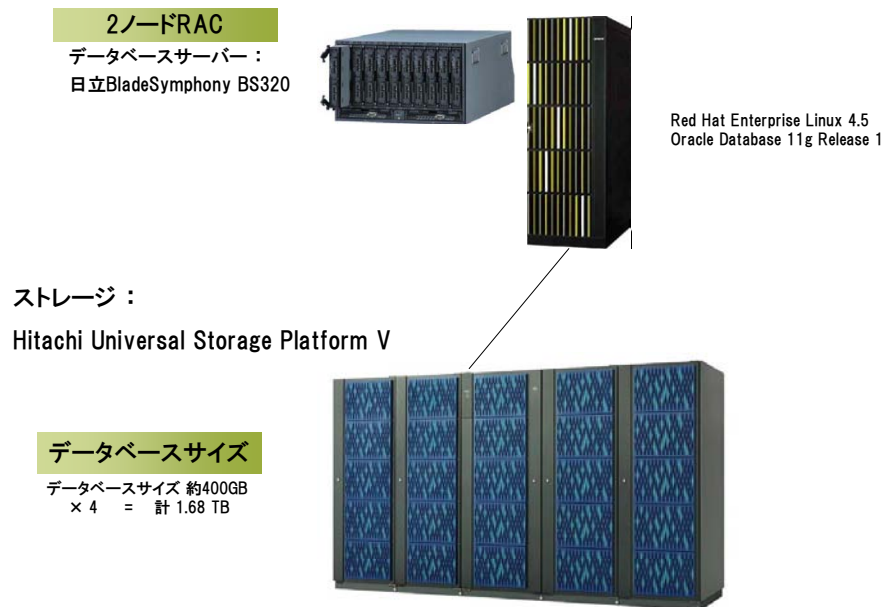
BladeSymphony BS320 (インテル®Xeon®プロセッサ搭載) × 2 ブレード

Red Hat Enterprise Linux 4.5

Oracle Database 11g Release 1 (11.1.0.6) Enterprise Edition

* ストレージ

Hitachi Universal Storage Platform V : 144GB × 28HDD (+ 2HDD スペア)



「検証システムの構成概要図」～ Oracle Data Guard 11g 検証

* データベース・サーバー

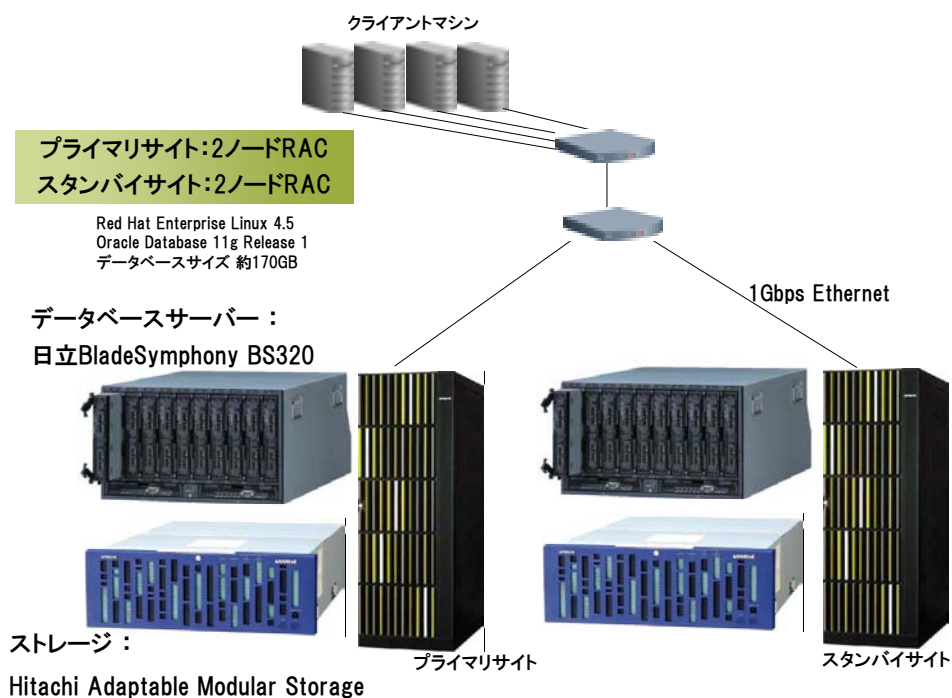
BladeSymphony BS320 (インテル®Xeon®プロセッサ搭載) × 4 ブレード

Red Hat Enterprise Linux 4.5

Oracle Database 11g Release 1 (11.1.0.6) Enterprise Edition

* ストレージ

Hitachi Adaptable Modular Storage : 144GB × 28HDD (+ 2HDD スペア)



このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
